

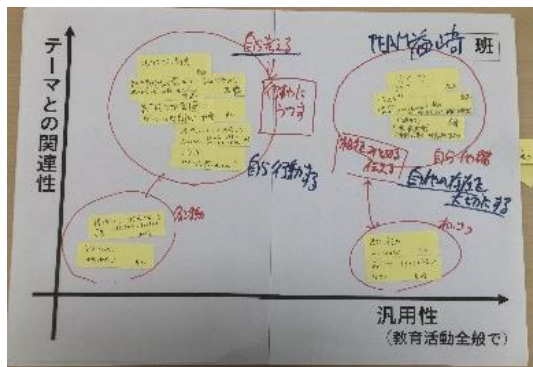
## 第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

### 小学校、中学校の教員と児童生徒で、共に作り上げる合志楓の森ルーブリック作成の取組

～ 合志市立合志楓の森小学校・合志楓の森中学校 ～

学校教育目標をもとに、児童生徒に身に付けさせたい力を全教職員で考え、目指す3つの力を設定した。小中学校9年間でどのような児童生徒を育てるのか、児童生徒の意見も反映し、その具体像をルーブリックという形で共有している。



#### ① 9年間で育成を目指す 資質・能力の洗い出し



#### ② 小中教職員による共通理解

|           |  |
|-----------|--|
| 身に付けさせたい力 | やりぬく力<br>・夢や目標を思い描く<br>・夢や目標に向かって努力する<br>・最後まで諦めずに挑戦する |
| 場面        | 生活   |

| 方向性  | 自分自身   | 集団・全体                             |
|------|--|-----------------------------------|
| 低学年  | 指示された自分のすべきことを行う。<br>【具体例】靴そろえ、筆箱の整理、トイレの使い方、時間割の用意、チャイムで行動する。<br>「挨拶」目を見る、元氣よく、正しい姿勢、立ち止まって のうち一つでもできる          | 指示された当番や係などの仕事を、責任を持って行う。         |
| 中学年  | 自分で判断して、自分のすべきことを行う。<br>【具体例】靴そろえ、筆箱の整理、トイレの使い方、時間割の用意、チャイムを意識して行動する<br>「挨拶」：目を見る、元氣よく、正しい姿勢、立ち止まって などができる。      | 自発的に当番や係の仕事を、責任感をもって行う。           |
| 高学年  | 他者との関わりを考えながら、自分のすべきことを行う。<br>【具体例】筆箱の整理、トイレの使い方、時間割の用意、時間を意識し前もって行動する<br>「挨拶」：目を見る、元氣よく、正しい姿勢、立ち止まってなどができる      | 学校全体のことを考え、自分の役割を自覚し、責任を持って取り組む。  |
| 中学1年 | 他者との関わりを考えながら、自分のすべきことを行う。<br>【具体例】身の回りの整理整頓、計画的な行動、時間を意識し前もって行動する<br>「挨拶」：目を見る、元氣よく、正しい姿勢、立ち止まって、場と状況に合った挨拶ができる |                                   |
| 中学3年 | 学校全体・社会全体のことを考えながら自分のすべきことができる。<br>【具体例】すべての生活面において自己管理ができていく。(自律・自立)  | 係や当番の仕事を創意工夫しながら、1年間の見通しを持ってやりきる。 |

#### ③ ルーブリックの作成（「やりぬく力」編）

学校教育目標を具現化するために、児童生徒に身に付けさせたい力を3つに整理（やりぬく力・伝える力・協働する力）し、小中学校の全教職員で共通理解を図る取組を行っています。

小中合同の校内研修においては、学習面・生活面の両面から9年間を見通し、児童生徒の目指す姿（具体像）をルーブリックにまとめました。

また、小学校の企画委員会、中学校の代議委員会においても、小学6年生、中学3年生で目指す自分たちの姿を検討し、児童生徒の言葉がルーブリックに反映できるようにしています。

さらに、12月の職員・児童生徒アンケートを基に評価・改善を図り、資質・能力の確かな育成につなげています。

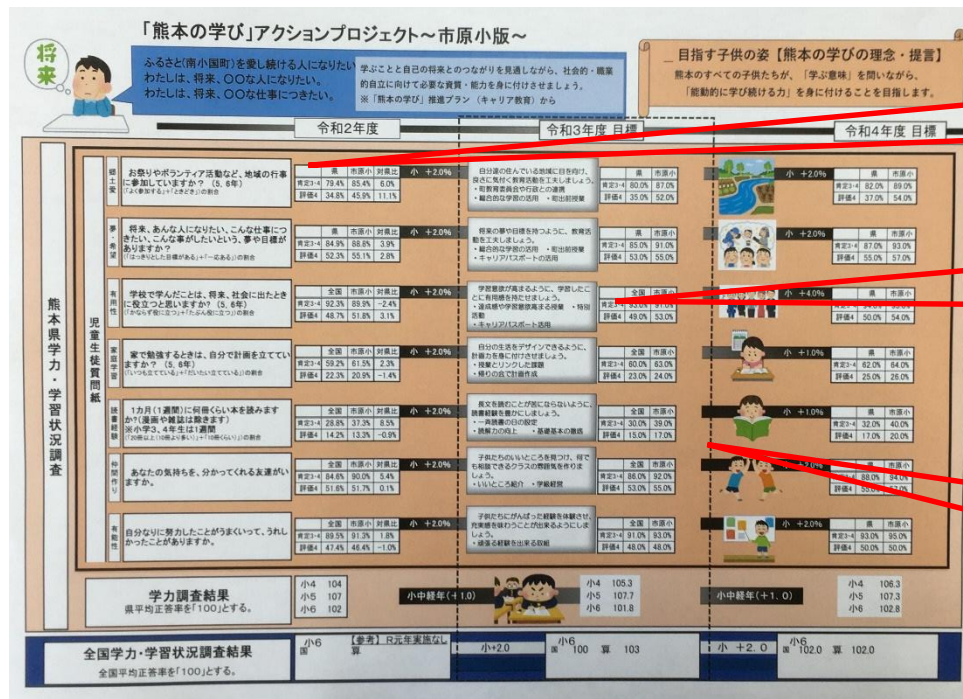
## 第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

### 熊本県学力・学習状況調査結果を活用した 学校独自の「熊本の学び」アクションプロジェクトの設定 ～南小国町立市原小学校～

【熊本の学びの理念】である、「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けるために、子供たちの「内発的動機付け」を向上させる取組を日常から意識して行っている。

熊本県学力・学習状況調査「児童生徒質問紙」の調査項目から、取組に関係する項目において数値目標を設定し、定期的にアンケートをとりながら検証している。



取組内容を検証するためのアンケート項目

内発的動機付けを高めるための具体的取組例

肯定的評価の割合の数値目標

「内発的動機付け」を向上させるために大切な「自律性、関係性、有能性」を高めるため、授業や行事等はもちろん学校生活すべてにおいて、様々な取組を意識して行っています。

目標設定については、児童生徒質問紙調査の中から学校の重点取組内容である「学ぶことと自己の将来とのつながり（キャリア教育）」に関する項目を洗い出し選定しています。

7月、12月、2月の年3回、ロイロノートを用いた調査を実施し、子供たちの意識の変化を把握しています。結果は今後の取組や教師の授業改善等に活かしています。

子供たちが夢と希望を抱き、自ら学び続けることを願いながら、学校総体としての取組を推進しています。

子供たちが自ら行動し、放送で自分たちの考えを伝えている様子



アンケート結果を子供たちが評価している掲示物





## 第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

# 教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進

～山都町立蘇陽小学校・蘇陽南小学校・蘇陽中学校～

「蘇陽中学校区」として義務教育9年間で段階的に育成する資質・能力を明らかにし、グランドデザインを作成している。また、ホームページ等で発信し、地域と共有できるようにしている。

### 1 基本構想

蘇陽中学校区グランドデザイン（蘇陽中学校 蘇陽小学校 蘇陽南小学校）

熊本県教育大綱  
熊本の学び推進プラン

小中学校教育目標 「ふるさとを誇り、夢の実現を目指す児童生徒の育成」

山都町教育大綱  
教育委員会 学校教育努力目標

### 育みたい資質・能力（目指す児童生徒像）

〇ふるさとを大切にすること

〇主体的に学ぶ力

〇自他を大切にすること

〇コミュニケーション力（社会性）

・地域の歴史や伝統を知り、ふるさと「蘇陽」を誇りに思う児童生徒  
・自尊感情を高め、互いを認め合い大切にすること児童生徒

・基礎、基本を確実に身に付け、主体的に学ぶ児童生徒  
・他者と進んでコミュニケーションを図り、自分のよさを表現する児童生徒

P 学校教育目標、重点努力項目  
育みたい資質・能力 業績評価



A 校務分掌ごとの職務1面の見直し  
企画・選考委員会 行事の直後プラン

＜義務教育9年間を見通した小中一貫した蘇陽の子の教育＞

- 〇学習指導の一貫性の確保・・・学習のきまりの統一、学習習慣づくりの一貫した指導、共通した授業改善への取組
- 〇生活指導の一貫性の確保・・・生活のきまりの共通化、三校情報交流会の定期開催
- 〇健康、体育指導の一貫性の確保・・・体力テストの結果と考察を元にした取組の一貫性の確保
- 〇教育過程の編成・・・始業時刻の統一、定例行事等の名称の統一、主な行事等の実施時期の統一、小中連携した児童生徒への情報の共有化

- 【後期】（中2・中3） 進路の実現
- 【中期】（小5～中1） 中1ギャップの解消
- 【前期】（小1～小4） 学習習慣や基本的な生活習慣等の定着

### ＜経営の方針＞

Creating the next!

子供たちの未来のために 新しい教育を創造しよう!

◆SOCIETY5.0を生き抜く児童生徒の育成をめざす。そのために、以下の4点に取り組む。

- 1 カリキュラム・マネジメントの推進 SOCIETY5.0を生きる児童生徒に「育みたい資質・能力」を明確にし、検証・改善を図りながら、社会に開かれた教育課程の実現をめざす。
- 2 コミュニティ・スクールの推進 地域と共にある学校づくりに努め、教員と児童生徒、保護者、地域との信頼関係を構築し、校区全体で児童の健全育成を図る体制づくりを進める。
- 3 授業改善・校務改革の推進 教職員一人一人のキャリアや個性を重視し、授業改善を図るとともに、校務の効率化を図り、児童と向き合う時間の確保に努める。
- 4 夢の実現につなぐ視点を持った教育活動の展開 学校の歴史と伝統を尊重しつつ、全職員一丸となった指導体制づくりを進め、厳しき中にも愛情が溢れる教育活動を実現する。

【こんな教職員に】 〇指導力と実力を高め続ける教職員 〇児童理解に努め、一人一人の児童に愛情をもって寄り添う教職員 〇チーム学校の一員として自覚をもって行動し、児童・保護者・地域から信頼される教職員。  
【校内研究テーマ】 「主体的・文脈的に学びを深める児童の育成」 ～算数科の授業改善と学習習慣作りを通して～

D 日々の授業実践 校内研修、  
学校行事 日常生活指導

学んだことを人生や社会に生かそうとする。  
「学びに向かう力、人間性など」

授業改善

実際の社会や生活で生きて働く。  
「知識及び技能」

未知の状況にも対応できる。  
「思考力、判断力、表現力など」

C 授業の評価 学力検査、  
学校評価・アンケート等 業績評価

蘇陽小学校・蘇陽南小学校・蘇陽中学校では、中学校区で連携し、組織でグランドデザインを検討・作成しています。

グランドデザインの中に、義務教育9年間で段階的に育成する資質・能力と、小中学校共通の教育目標を設定しています。

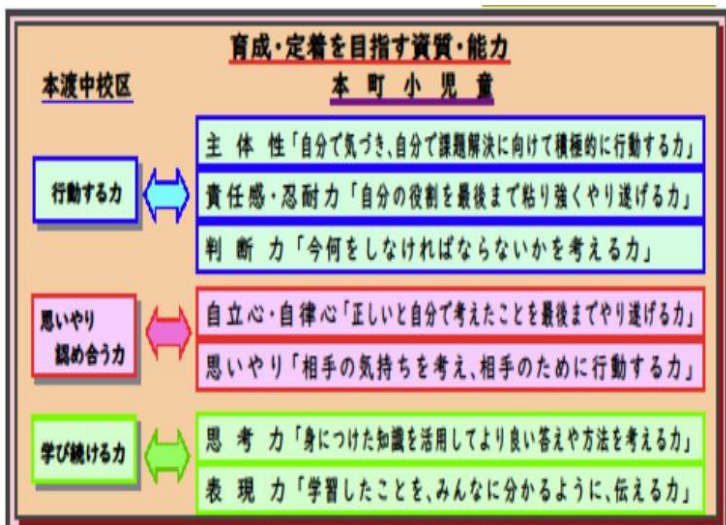
作成したグランドデザインについては、全職員で共有を図り、PDCAサイクルに則って取組の評価、改善を行っています。

## 第2章

【すべての教職員が連携・協働し、目指す子供たちの姿を思い描く】実践例

本渡中学校区（4小1中）における、つながりのある教育に向けた連携の取組  
～天草市立本渡南小学校・本渡北小学校・本町小学校・佐伊津小学校・本渡中学校～

4小1中からなる本渡中学校区では、本渡中学校の「育てたい資質・能力」を各小学校のグランドデザインに位置づけ、つながりのある教育を目指した連携の工夫を行っている。



本渡中学校区では、つながりのある教育に向けて、以下のことに小中連携して取り組んでいます。

- ・ 育成を目指す資質・能力の共有
- ・ 定期的な校長会議、教頭会議
- ・ 「熊本の学び」スタートアップ研修（各校の教頭・主幹教諭・教務主任）
- ・ 校務分掌担当者会議
- ・ 授業参観（小⇄中）
- ・ 訪問授業（中⇒小）

また、校区にある幼稚園、保育園を加えた「若竹会」（幼保小中連携担当で構成）を組織し、保護者、地域も交えた活動を展開し、15年間を見通した児童生徒の健全育成に努めています。

<天草市立本町小学校グランドデザイン（一部抜粋）>